

＊ 人形劇は、人形を作ったりするのに結構手間がかかるが、ある程度形が出来次第、毎日短時間でいいから稽古もどんどんやっていこう。人形劇は『小道具を持つ』という行動ひとつをとって人間の芝居のようにスムーズにいかないので、段取りの稽古もやろう。

## 技術的なポイント

### 人形の視線が大事



『ちゃんと相手(対象物)を見ているか?』あるいは『わざと目をそらしているのか?』ということがはっきりしていることが大事。やってみるとわかると思うが、人間の芝居では何でもないことなのに、人形だと相手(物)をよーく見るだけでなんだかおかしい。逆に、視線がずれていたりすると意味が変わってしまったり、意味が全然伝わらなかったりするので、第三者が前から見て、視線が合っているかどうか見てあげよう。

### 何となく動かない

人形劇では『視線』もそうだけど、ひとつひとつのちょっとした動きがすごく意味を持ってくるので、何となくユラユラ動いたりしない。はっきり動き、ピタッと止まること(実はこれがなかなか難しいのだけれど)を意識する。

## とにかく集中する

稽古を短時間で実りあるものにする為にも、はずかしがったりダラダラしたりせず、自分の役に集中しよう。周りの人もそれぞれに集中し、冷やかしたり茶化したりするのはやめよう。

ただし、芝居を向上させる為の意見(「今の場面はもっとテンポを出したほうがいいんじゃないか」とか「そのセリフは視線をそらさずに言ったほうが、気持ちの強さがより伝わるんじゃないか」みたいなこと)はどんどん出し合おう。

## 総合的な稽古

どんどん本番さながらに音(稽古の中で音楽の間尺も修正していく)を入れたり、照明(本番どおりに仕込まなくても、部屋をクラクシテスポット 2 台くらいで、つけたり消したり『キッカケ』を追うだけでも、俄然稽古の集中力が増す)を入れたりして稽古していこう。